学会発表実績　一覧 （2018年8月現在）

発表年月		学会名	演者	演題名	発表の意義
2018年	6月	第63回日本透析医学会 学術集会・総会	田中 義輝、他	炭酸ランタンの剤形変更による血清リン値への影響	慢性腎臓病の患者に広く使われているリン吸着薬「炭酸ランタン」の口腔内崩壊錠が新しく発売されました。これを受けて既存の剤形（チュアブル錠、または顆粒）から口腔内崩壊錠に切り替えた時に血液中のリンの濃度が変動するかどうかをカルテ記録等を過去に遡って調べた研究です。結果として、切り替え前後でリンの値に差はなく、炭酸ランタンの口腔内崩壊錠はチュアブル錠または顆粒と効果は同等であることが明らかとなりました。
2017年	11月	第27回日本医療薬学会年会	伊藤 哲也	注射剤配合変化予測のための化学構造式評価	注射剤を混合することによって起こる溶解度の減少や力価の減少は、死亡事例も報告されている問題です。これを防止するため製薬会社が行った混合試験を調べることが通常ですが、組み合わせが多いため適切な対応が非常に困難です。これに対して薬の化学構造式から物性を予測することで、混合時の挙動を理論的に評価し、効率的な対応を可能にしています。本発表は類似の報告がない新手法の提案です。
	11月	第27回日本医療薬学会年会	田中 義輝、他	疑義照会および相談応需内容に対する入力システムの構築と事例内容の解析	処方せんの記載内容において疑問点や不明な点などがあった時に、処方した医師に薬剤師が問い合わせをした記録、薬の使い方や薬の飲み合わせなど薬剤師が医師、看護師などから受けた相談の記録について、入力・閲覧・解析するシステムを、マイクロソフト社のAccessというデータベースソフトを用いて開発しました。このシステムにより、薬剤師間の情報共有に大きく貢献できただけでなく、どのような内容の問い合わせや相談が多いのかを容易に解析できるようになりました。
	6月	第62回日本透析医学会 学術集会・総会	田中 義輝、他	透析患者における転倒に影響を与える薬剤の検討	透析患者における転倒に影響を及ぼす薬剤を明らかにする目的で、透析患者のみを対象として、カルテ記録等を過去に遡って、当院入院中に、転倒があった群と転倒がなかった群に分けて、群別に服用していた薬剤を集計し比較検討しました。結果として、入院中に転倒があった群は転倒がなかった群に比べて「非ベンゾジアゼピン系睡眠薬」という種類の薬剤を服用している割合が高いことが明らかとなり、この種類の薬剤を服用している透析患者は転倒に十分注意を払う必要があることが示唆されました。

発表年月		学会名	演者	演題名	発表の意義
2016年	11月	第10回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	田中 義輝、他	透析患者における「高齢者に慎重な投与を要する薬剤」の処方調査	日本老年医学会より「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」が発表されたのを受けて、ガイドライン上に記載のある「高齢者に慎重な投与を要する薬剤」（以下、注意薬剤）、すなわち”高齢者で有害事象の頻度が高い薬”が処方されている透析患者がどれくらいいるかを調査をした研究です。結果として、透析患者では注意薬剤の処方割合は高く、さらに服用患者の3～4割は75歳以上でした。この結果より、今後、有害事象のリスクを減らすためにも薬剤師による処方適正化への支援や患者への情報提供が非常に重要であると考えています。
2015年	11月	第25回日本医療薬学会年会	伊藤 哲也	オーダリングシステムにおける薬物相互作用チェック：AUC変動率表示と施設内併用禁忌の設定	複数の薬を使用することで薬の効果が強くなったり弱くなったりする相互作用の中には薬の血中濃度が10倍以上になったり10分の1以下になったりするものがありますが、危険度の大きな相互作用が必ずしも併用禁止なっていません。相互作用に関する論文を多数調査することで、危険度を正確に評価しコンピュータ上で自動チェックするようにしました。危険度の大きな組み合わせは添付文書上併用が認められているものでも併用禁止にすることで、安全な薬物療法に貢献しています。